

第 82 回 教育研究評議会議事要旨

日 時 令和 6 年 11 月 29 日（金）10：00～11：50

場 所 高エネルギー加速器研究機構 管理棟大会議室 + ウェブ（Zoom）併用

出席者

【構成員】 浅井議長、足立評議員、長野評議員、花垣評議員、道園評議員、元村評議員、青木評議員、雨宮評議員、後田評議員、荻尾評議員、帯名評議員、上垣外評議員、栗栖評議員、小関評議員、小林評議員、齊藤評議員、菅原評議員、田島評議員、中野評議員、中村評議員、波戸評議員、廣井評議員、福村評議員、船守評議員、門馬評議員

【オブザーバー】 三明監事、白木澤監事、五味田総務部長、山崎財務部長、永木研究協力部長、原研究協力部次長、櫻井参事役、坪監査室長、岩見人事担当課長、飯塚財務企画課長、山口研究協力課長、島根共同利用支援課長、河西 QUP 業務推進室長、横田施設企画課長

配付資料

1. 第 81 回教育研究評議会議事要録
2. 人事異動
3. 機構における人材育成について（ポスドク受入）
4. 高エネルギー加速器研究機構における教育体制等について
5. J-PARC センターの運営体制等について
6. LiteBIRD 計画について
7. 量子場計測システム国際拠点長代理について

【1】第 81 回議事要録について

浅井議長から、資料 1 の議事要録は事前に確認済みであり、確定版を配付している旨の説明があった。

【2】報告

（1）人事異動

浅井議長から、資料 2 に基づき報告があった

（2）機構における人材育成について（ポスドク受入）

花垣評議員から、資料 3 に基づき報告があった。

(3) 高エネルギー加速器研究機構における教育体制等について

花垣評議員から、資料4に基づき報告があった。

(4) J-PARC センターの運営体制について

小林評議員から、資料5に基づき報告があった。

(5) LiteBIRD 計画について

花垣評議員から、資料6に基づき報告があった。

＜主な意見・質疑応答等＞

- ・今後 KEK が担当していた低周波望遠鏡焦点面検出器の開発は他の施設が担うのか、それとも計画自体が断念となるのか。

→KEK 担当機器の代替調達プランを含め、JAXA が計画の見直し検討を今後約1年かけて実施し、継続検討の可否を判断する見通しであることと認識している。

- ・LiteBIRD 計画や物理は KEK が主体ではないのか。

→LiteBIRD 計画は JAXA が主導している。また、物理に関しては LiteBIRD コラボレーションが主体となっている。

- ・今回の判断で、KEK は LiteBIRD 計画から完全に撤退するということか。それとも、低周波望遠鏡焦点面検出器の開発・製造は断念するが、要素技術の研究開発は続けるのか。

→計画には引き続き参画し、要素技術の研究開発は引き続き行うこととしている。

(6) 量子場計測システム国際拠点長代理の設置について

浅井議長から、資料7に基づき報告があった。

＜主な意見・質疑応答等＞

- ・教育研究評議会では、QUP の問題について議題にあがったことはあるか。

→ない。

- ・具体的に何が問題だったのか。

→問題点は3つ指摘されている。①QUP のビジョン（人類に新しい眼をもたらす）の追求に向けた活動が十分に実施されていないこと、②拠点長と関係方面との間のコミュニケーションが十分に取られていないこと、③QUP としてのプロジェクト推進による相乗効果が見込めないこと、である。

- ・QUP のビジョンである「人類に新しい眼をもたらす」を引き継ぎ、成果の最大化を図り、新しく就任する拠点長への円滑な交代に向けて尽力する。また、問題点と指摘されたコミュニケーションについても、組織内外の研究連携を強化していく。

【3】研究活動報告

(1) 齊藤評議員（素粒子原子核研究所長）から、素粒子原子核研究所の研究活動状況について報告があった。

＜主な意見・質疑応答等＞

- ・クロスアポイントメントで KEK に出向するメリットとは。

→ユーザーとして研究するよりも、運営に関わりながらプロジェクト研究に取り組むことで、大きな施設を運営する知見も得ることができる。

・カーボンニュートラルの実現に向けて、加速器を使った研究テーマがあるのか。

→カーボンニュートラルに資する研究テーマも重要であるが、現段階では電力を減らすことが課題だと認識しているため、ソーラーパネルの活用などについて機構内の理解を得ながら進めている。

・J-PARC では、効率化を図り、できる限り多くの実験を並行して実施する必要があるが、そのために予算執行面で工夫をしているか。

→各プロジェクトが予算や人材の事情で律速を受けている状況にあることは認識している。今後、予算の配分においては、機構として実施すべきなのか各所施設として実施すべきなのかを機構ワイドで検討していく。また、人材不足である現状においてプロジェクトを進める際には、いかにして成果を出していくかを重要視して推進する必要がある。

(2) 船守評議員（物質構造科学研究所長）から、物質構造科学研究所の研究活動状況について報告があった。

＜主な意見・質疑応答等＞

・CIQuS について、①発掘型共同利用・②テーマ設定型共同利用・③マルチプローブ若手人材育成の3事業を強化するにあたり、どのように予算を捻出していくのか。

→現状は文部科学省からの予算を使用している。

・素粒子原子核分野との協力を強化し、機構ワイドのフロンティア事業を立ち上げていきたい。

・次期放射光源施設の実現に向け、つくばというロケーション利点を活かし積極的に広報を進めるなどし、財源確保含め次のステップに繋がるデザインをお願いしたい。

→新しい放射光の活用方法や新しいビームの開発等、方向を見定めた上で政府等からのサポートに向けた活動も進めていきたい。

【4】その他

浅井議長から、閉会の挨拶があった。また、次回の評議会は令和7年3月4日に開催するとの案内があり、閉会した。

以 上